

はしがき

学校教育は本来計画的な教育である。これは高等教育といえども例外ではない。マクロレベルで高等教育政策を進めるに当たっても、ミクロレベルで授業を実施する当たっても計画は必要とされる。特に高等教育の抜本的な改革が求められている今日、その重要性がいつそう増大している。そうした見地から国立学校財務センター研究部ではミクロ・レベルとマクロ・レベルの高等教育計画について調査研究を実施した。

前者は「シラバスを中心とした大学教育改革の評価研究」（平成7・8年度カリキュラム改革調査研究経費）であり、後者は「人口減少期における高等教育計画策定の可能性」（平成8年度特定研究経費）である。

前者に関しては全国立大学の各部局、後者に関しては全国私立大学の全面的なご協力によって可能となった。ご多忙中の中をアンケートに回答して下さった関係各位に厚く御礼申し上げたい。

また、前者のアンケート作成に関しては、喜多村和之国立教育研究所教育政策研究部長、館昭学位授与機構教授、池田輝政大学入試センター教授（現在メディア教育開発センター教授）、吉本圭一放送教育開発センター助教授（現在九州大学教育学部助教授）のご協力を戴いた。記して感謝申し上げたい。

調査研究に当たったのは当研究部教授市川昭午であるが、アンケート調査については事業課が全面的に協力した。

今後各方面のご批判をいただき、さらに研究を進めて行きたいと考えているが、調査研究が高等教育政策の改善に少しでも寄与することがあれば幸いである。

平成10年1月

国立学校財務センター研究部長 市川 昭午